



特許願 (1) (特許法38条ただし書の規定による特許出願)  
(2,000円)

昭和49年12月10日

特許庁長官 聞

1. 発明の名称 ゴルフのティー

2. 特許請求の範囲に記載された発明の数 3

3. 発明者 特許出願人に同じ

4. 特許出願人

郵便番号 105

住所 東京都杉並区成田東5丁目16番7号

氏名 森下第一

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通

(2) 図面 1通  
49 141668

### 明細書

1. 発明の名称 ゴルフのティー

2. 特許請求の範囲

1. 逆円錐形の基部(1)の上面に2又は3以上の弾性材の細長い支柱(2)を設け、支柱(2)の上部を球(3)との接觸点(6)としたゴルフのティーに於て、基部(1)の上面を凹ませ、その内側に支柱(2)を設けたゴルフのティー。

2. 逆円錐形の基部(1)の上面に1又は1ヶ所以上に設けた穴に繊維を束ねた植毛鈎を設け、植毛鈎の上部を球(3)との接觸点(6)としたゴルフのティーに於て、基部(1)の上面を凹ませ、その内側の穴に植毛鈎を設けたゴルフのティー。

3. 逆円錐形の基部(1)の上面に1又は1以上の弾性材の細長い支柱(2)を設け、支柱(2)の上に保持部(7)を設け、球(3)を保持部(7)の上部に乗せて使用するゴルフのティーに於て、基部(1)の上面を凹ませ、その内側に支柱(2)を設けたゴルフのティー。

4. 発明の詳細な説明

本案はゴルフのティーショット時にティーがラ

⑯ 日本国特許庁

## 公開特許公報

⑯特開昭 51-68330

⑯公開日 昭51.(1976)6.12

⑯特願昭 49-141668

⑯出願日 昭49.(1974)12.10

審査請求 未請求 (全4頁)

府内整理番号

6641 25

⑯日本分類

Y20.G553..1

⑯Int.CI<sup>2</sup>

A63B 57/00

(2)

ウンドに立ててその上に球を乗せて使用するティーに関するものである。

従来ゴルフのティーはティーショット時に球と共にクラブヘッドにより打たれ、飛ばされたことがあった。この為クラブヘッドの運動エネルギーの一部はティーが飛ばされることに使われ、球の飛距離はそれだけ伸びなかった。

本案はこれらの点を考慮に入れ、打球に対する影響の少いゴルフのティーの改良に関するものであり、次にその構成を実施例について図面とともに詳記する。円錐形を逆にした基部(1)の上面を円錐形に凹ませる。凹ませた基部(1)の内側の底面上又は内側の側面に3本の支柱(2)を設ける。支柱(2)はその上部にゴルフの球(3)を乗せ得る充分な強度を持たせ、しかも曲げやすい様に充分細くする。支柱(2)の材質は曲げ変形の後、力を取り去った場合には、速やかに元に戻る様に弾性材とする。

次に本案の使用方法について述べる。ゴルフのティーショット時に、基部(1)を下にして、ティーグラウンドに鉛直に基部(1)を土中に押し込み、支

(3)

杆(2)の上に球(3)を乗せる。3本の支柱(2)の先端の接触点(6)は球(3)を支える。球(3)はクラブヘッド(4)で強打し、飛ばす。このとき支柱(2)は曲がりやすい為クラブヘッド(4)のトヨが当ると容易に曲がりクラブヘッド(4)の通過を、また元に戻る。

ティーショット時のティーアップによる球(3)の嵩上げ高さは、通常、球(3)の半分から1個分程度にすることが多く、そのハリ支柱(2)の球(3)を乗せ得る強さの制限により柔軟に曲がりやすく構成する事が難かしかった。又、支柱(2)を細くすると、支柱(2)は付け根から曲がりやすく折り、そのため折れる事もあった。本案はこれらの点を考慮に入れ、  
基部(1)の上面を円錐形に凹ませ、内側の底部に支柱(2)を設けたものである。この為、支柱(2)は従来のものより曲がりやすくできる。又、曲がった場合は第4図に示すように、基部(1)のフランジ(5)が支柱(2)に当り、支柱(2)の付け根の部分の曲がる角度が制限される為、支柱(2)の付け根の部分が折れる事はない。

第5図は本案の他の実施例であり、支柱(2)の数

(5)

を安定に保持部(7)の上に置く事ができる。

支柱(2)の上部と球(3)とが接触する支柱(2)の上の接触点(6)は、使用状態に於て、必ず球(3)と接触するとは限らず、支柱(2)の数が多い場合は球(3)と接触しない支柱(2)もある事になる。接触しない場合は、各支柱(2)の最も球(3)に近い点を接触点(6)とする。又、接触点(6)は支柱(2)の上端とは限らず、支柱(2)の上部の鋸面にある事もある。使用状態に於ては、基部(1)は正確に鉛直に置かれるわけではなく、球(3)の重さも一定ではない為、接触点(6)は固定したものではない。本案では使用状態に於て、接触点(6)は球(3)を安定に置く事ができるように構成する必要があり、その条件を次に示す。接触点(6)は最低3点あれば良く、3点は同一直線上になく、しかも使用状態に於て球(3)の重心を通る鉛直線が接觸点(6)の3点が作る三角形の内部を通る必要がある。接觸点(6)が3点以上の場合も同様に、使用状態に於て、球(3)の重心を通る鉛直線が外側の接觸部が作る凸多角形の内部を通る必要がある。球(3)と保持部(7)の接觸は点である必要はなく、線でも面でも可能であり、その場合も同様に外側の接觸部が作る凸多角形又は凸閉曲線が前記と同じ条件を満たせば良い。さらに第10、11図に示すように保持部(7)の上面を球(3)より大きい半球の球面状のカップとした場合には、球(3)と保持部(7)との接觸部は、球(3)の重心を通る鉛直線と保持部(7)の上面との交わる一点となり、この関係は保持部(7)を少し傾けても変わらない。これは前記の条件の特別

特開 昭51-68330(2)

を5本としたものであり、支柱(2)の上に安定に球(3)を置く事ができる。

第6、7図は本案の他の実施例であり、基部(1)の凹ませた上面の内側に設けた穴に支柱として椎茸を束ねた植毛鉤を設けたものであり、植毛鉤は非常に曲がりやすい為打球に対する影響はさらに少い。

第8、9図は本案の他の実施例であり、1本の支柱(2)の上に3本の枝状の保持部(7)を設けたものである。支柱(2)が1本である為取り扱いが簡単であり、又球(3)を安定に保持部(7)の上に置く事ができる。

第10、11図は本案の他の実施例であり、1本の支柱(2)の上にカップ状の保持部(7)を設けたものである。支柱(2)が1本である為取り扱いが簡単であり、又球(3)を安定に保持部(7)の上に置く事ができる。

第12、13図は本案の他の実施例であり、基部(1)の上部に4本の支柱(2)を設け、支柱(2)の上部にはち状の保持部(7)を設けたものである。この為球(3)

(6)

保持部(7)の形状は使用状態に於て、その上部に球(3)を安定に置く事ができるよう構成される必要があり、その条件を満たす多くの形状が考え得る。球(3)を安定に置く為の保持部(7)の条件を次に示す。球(3)と保持部(7)とが接觸する保持部(7)の上の接觸部は最低3点あれば良く、3点は同一直線上になく、しかも使用状態に於て球(3)の重心を通る鉛直線が接觸部の3点の作る三角形の内部を通る必要がある。接觸部が3点以上の場合も同様に、使用状態に於て、球(3)の重心を通る鉛直線が外側の接觸部が作る凸多角形の内部を通る必要がある。球(3)と保持部(7)の接觸は点である必要はなく、線でも面でも可能であり、その場合も同様に外側の接觸部が作る凸多角形又は凸閉曲線が前記と同じ条件を満たせば良い。さらに第10、11図に示すように保持部(7)の上面を球(3)より大きい半球の球面状のカップとした場合には、球(3)と保持部(7)との接觸部は、球(3)の重心を通る鉛直線と保持部(7)の上面との交わる一点となり、この関係は保持部(7)を少し傾けても変わらない。これは前記の条件の特別

(7)

な場合と考えられ、保持部(7)の上面に安定点ができる為である。

このように本案に於ては、ティーアップの嵩上げ高さが低い場合でも支柱(2)を充分に曲がりやすく構成することができる。又、折れやすい支柱(2)の付け根の部分の曲げ変形を底部(1)が制限する事になり、非常に折れにくい。

#### 4. 図面と簡単な説明

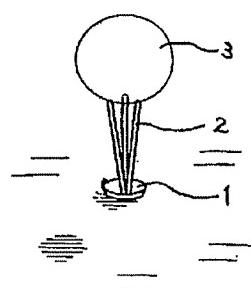
第1図は本案の本體の示視図、第3図は本案の使用状態の示視図、第4図は本案の使用状態の一剖切欠上部図。第5～8図、第10、12図は本案の他の実用例の示視図、第9図は第1図の、第11図は第10図の、第13図は第12図の各実用例の縦断面図。

1は基盤、2は支柱、3は球、4はクラブヘッド、5はフランジ、6は接触点、7は保持部、12は植毛。

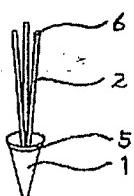
特許化願人 森下勇一

特開 昭51- 68330(3)

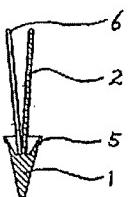
第3図



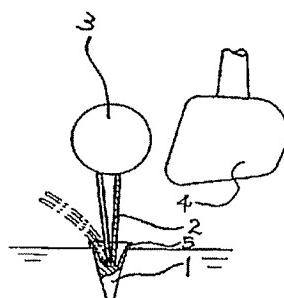
第1図



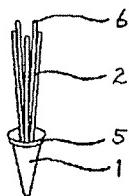
第2図



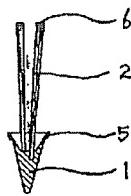
第4図



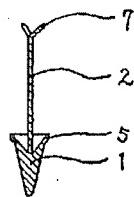
第5図



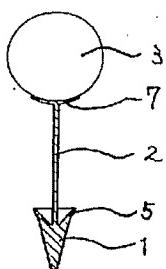
第7図



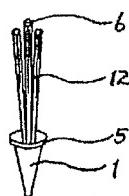
第9図



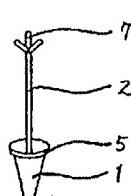
第11図



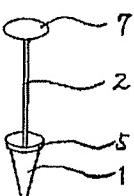
第6図



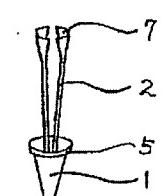
第8図



第10図



第12図



第13圖

